

神奈川異グ連の活動状況を伝える機関紙 <第105号>

かながわ異グ連ニュース

発行：神奈川県異業種グループ連絡会議（議長 金究武正）

発行責任者：専務理事(事務局長) 芝 忠

〒231-0015 横浜市中区尾上町5-80 神奈川中小企業センタービル5F

TEL 045-633-5142 FAX 045-633-5194

<http://www.kanagawa-iguren.com>**神奈川異グ連第28回総会と異グ連の大震災支援対応状況** 芝 忠

第28回異グ連総会が6月29日開催され、平成22年度の事業活動報告や新年度の計画等が承認されました。特別講演では、岩手大学工学部清水教授（岩手ネットワークシステム事務局）による大震災の状況報告や支援活動の紹介、討論の中で大槌町の工場が被災した賛友精機(株)紀中社長（異グ連理事・川崎異業種研究会会長）や、健康食品の支援物資を多数送った東京のイムダイン社本多社長の紹介のほか、参加者から震災の影響、今後の方向について感想や意見が多数出され、大変有益な議論となり、懇親会も盛り上がりました。

これに先立って6月18日～20日、異グ連調査団7名（奥寺清二団長）が現地に入りました。2班に別れて初日は宮古から山田・大槌・釜石・三陸・大船渡・陸前高田と一気にまわり全体の把握、3ヶ月経ったので、かなりガレキが片づけられていましたが、いまさらに一面見渡すかぎり町並みが消え失せ、わずかにコンクリートの建物の残骸がポツン、ポツンと残っている有様。鉄道の路盤がところどころ残っており、走っていた様子がしのばれる、コンクリートの厚さ数メートルある防潮堤の真ん中部分が津波の一撃で大きく破壊されている様子も分かります。仮設住宅が低地に作れないので、山陰にひっそりと建てられているのが見受けられ、買い物にも不便でしょう。ガレキを片づける重機とダンプカーだけが黙々と働いており、夜間にはおそらく一面真っ暗になると思われます。

2日目は釜石と大槌に集中。県沿岸広域振興局（釜石）の産業振興課と水産調整課を訪問して、具体的な工具や工作機械類の支援方法について相談。びっくりしたのは藤沢の「湘南事業家フォーラム」が先行してすでに具体的な工作機械の搬入方を協議中でした。改めて岩手大のネットワークの影響力や神奈川県内にも呼応する組織があるんだということを確認しました。釜石市の災害対策本部では持参したイムダイン社の健康飲料やベープ・マスクが喜ばれ、医療班を通して市内の保健所や診療機関に配布してくれることとなりました。市内の石村工業では奇跡的に残った工場建屋（2階まで浸水した）で薪ストーブが結構な受注量があると活気づいていました。電力不足の影響でしょう。以前スターリングエンジンを製作したことがあると同行したメンバーと意気投合、共同開発が話題となっていました。

大槌町の賛友精機工場では社員や家族の被災にも関わらず、元気に稼働していました。隣に集団避難所（ここから通っている社員もいる）や自衛隊の駐屯地、消防隊の駐車場などがあり、救援活動の生々しい雰囲気は漂います。紀中社長は震災後ただちに、食糧の輸送や、機械類の調整など大変だったそうで、また社員の精神的なフォローアップも重要だと報告していました。

支援物資については、横浜市緑区の大工さんや都筑区の電機業者が協力して、現在輸送手段を検討中。湘南事業家フォーラムとも連携して対応する計画。

新年度の重点事業として、9月の学生見学ツアー計画が関東学院大学と県内企業との間で進行中。大震災後のモノづくり基盤強化を目指す「新事業・新技術支援フォーラム」の態勢づくり、中小企業振興条例運動、地域サロン活動、医療福祉分野への新たな活動計画など目白押しです。さらに公益財団法人となった神奈川産業振興センターとの連携を強化し、共同事業を大いに展開する予定です。もちろん海老名の産業技術センターとも協力していきます。また異グ連「三役会議」を新たに設置し、役員・スタッフ間の情報交換を緊密にします。今後ともよろしくお願ひします。

<岩手県震災地を訪ねて～感想> Nセラ研 永瀬英次郎

岩手県宮古～陸前高田 凄まじい、自然の驚異、地震、津波、火災…

おびただしい瓦礫の山と、晴れて穏やかな海とを目の前にして、その対比が信じられません。

生活の基盤を根こそぎ奪われた人々の姿はそこにはありません。喪失感、絶望、不安…想像に難くありません。

再起に向け、動き出した人々への支援に、我々もその一助となるべく、現地に赴きました。

復興は人と人との繋がり、顔の見える関係の構築です。

支援からビジネスへ、情報交換がさらに大きなビジネスへと発展。先の長いお付き合いの始まりです。

<岩手県からの支援物資輸送に関する依頼を受領>

神奈川県異業種グループ連絡会議

議長 金究 武正様

岩手県商工労働観光部商工企画室特命参事担当

支援物資の搬送について

盛夏の候、貴職におかれては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

貴会議からは、東日本大震災で被災した本県中小企業の復興のため、支援物資を賜り、感謝申し上げます。

このたび、一団の支援物資を賜ることになりましたが、当方に長距離用の移送手段がないこと、本事業は予算措置を講じない、いわゆるゼロ予算で取り組んでいることなどから、移送方法を講ずることができない状況にあります。

つましては、貴会議で当方まで移送頂ければ幸甚です。

末尾になりましたが、貴会議のますますのご発展を祈念申し上げます。

特命参事(被災企業支援担当) 沢田 修 釜石市駐在 電話 0193-25-2701

<7月支援状況>

内容：オフィス家具、生活家具、家電等 約20種40点を釜石へ輸送する。

横浜市保土ヶ谷区の横浜貨物輸送(株)に輸送を担当いただく。

神奈川県安全防災局災害支援調整課より「**災害支援物資輸送許可証**」を受領。

産学官交流サロンのコーナー**おなじみ尾上町サロン(ぶらり参加大歓迎!!)**

日 時：原則第一・三金曜日(08月05日、19日、09月02日、16日) 17:15~19:30

場 所：神奈川中小企業センター5階異グ連事務所 参加費：1000円(現物も大歓迎)

話 題：自由に持ちより(テーマの事前予約OK) 問合せ：芝、八幡、鈴木 045-633-5142

第33回(07月11日)西湘サロンの報告

吉池正樹

今回は「**NIPPON発・世界の弦楽器ブランドを目指して**」とのテーマで、(株)アルシェ 取締役小田原工場長も兼務されている(株)ビオリーノ執行役員 堀 西基(ほり ゆうき)氏にお願いしました。

同社は文京楽器グループの弦楽器製作部門です。同氏は20年以上にわたり、名器の再現をめざす研究プロジェクトの責任者として、膨大な数の各国、各時代の名器を研究してきた成果として「リバース」シリーズを発表。これまで、世界の著名ディラーから、最大級の評価を受けています。

現在は「ピグマリウス」「アルシェ」両ブランドの統括責任者も務めながら、名器、名弓の研究に継続して情熱を注いでいる方です。小田原に工場を立地した経緯を含め、少しでも「ストラディバリウス」に近づきたいとの抱負等を語っていただきました。

当日は名器持参での弾き比べ、参加者を唸らせました。

残暑に負けず拡大サロンを実施! 第34回西湘サロン『拡大版』

***日 時：平成23年9月12日(月) 午後2:15pm~7:00pm(開場1:30pm)**

***場 所：小田原商工会館大ホール(小田原市城内1-21)**

***特別講演会：「医療と福祉のコラボレーション」(高齢者と明日を生きるためのヒント)**

***主催：神奈川県異業種グループ連絡会議 後援：小田原市・神奈川新聞社 協賛：民報社**

第一部：2:15~3:00

テーマ1「高齢者に木のぬくもりを」

ケアー木の会代表(クラフトエイト露木木工所) 露木孝作氏

高齢者用の玩具を、12年ほど前から作りはじめ、“五目並べ”が初めてであった。はし使いがリハビリに使われていることを知ったのがキッカケだそうです。そして、箱根に伝わる伝統工芸業者の仲間4人で、グループを結成し、多くの木工玩具を作ってきましたが、その効用を語ってくれます。

テーマ2「デイサービス事業の開業と今日まで」

健康館 代表取締役 瀬戸みすず

湯河原間町での第1号店・第2号店をはじめ、最近では小田原市での開業と発展している企業です。

女性高齢者3人で、会社を設立したが、その際には高齢者の創業を支援する助成金の活用を図った。創業への思いと、今日までの体験を語ってくれます。

第二部：3：00～4：00

テーマ「理学療法と役立つ運動機器」

国際医療福祉大学 理学療法学科 准教授 昇 寛氏

長期臥床患者や低運動性高齢者など生活活動能力の低い人々のための、下肢協調性運動器として考案されたもの（下駄型ローラーペダル運動器）を報告していただき、当日は、参加者の中から、若干名の方に、実際に運動器を使用して効果を体験していただきます。

第三部：4：10～5：10

テーマ「地域社会との調和の中で新しいシニアサービスを提案する」

—————**街かどの小規模有料老人ホームを展開**—————

株式会社サンフォーレ 代表取締役 堀井 利修氏

同社は、平成4年鎌倉市に実験館「サンフォーレ鎌倉」を開設、同年第一回神奈川県新企業創出オーディションにて優秀賞を受賞して以来、藤沢市と鎌倉市を中心に県内10箇所の高齢者施設を展開してきた。平成9年にはニュービジネス協議会（NBC）にて、「小規模なシニアホームを拠点とした介護サービス」のコンセプトとその実績が高く評価されて、同年の優秀賞を受賞した。平成23年5月には、横浜市内にも進出。さらに、ケアサービスを通じて、食材の探求をすすめてきて、福祉業界初の「薬膳スープ専門店」を開業し、フランチャイズ展開を図っています。

交流会：5：30～7：00

かながわ異グ連の会員グループやプロジェクトの状況

シフト21 【<http://www.shift21.jp/>】

有村知里(arimura-c@nifty.com)

7月定例会は「健育セミナー～薬・病気の情報の賢い持ち方と病院・薬局のかかり方」を株式会社健育社 畑川郁江様（薬剤師）にお話いただきました。ネット社会で薬や病気の情報があふれているなかで、適切な知識や情報にたどりつくためのHPの紹介、上手に病院や薬局の従事者に関わり、賢い「患者」になれるヒントはとても参考になりました。

8月定例会は「みんなの住育～大震災時代に家族を守る、財産を守る、転ばぬ先のチェ」をテーマに、コピーライターで住育研究家の竹島靖様にお話をいただきます。竹島様はご自身の住宅探しを機に住宅の品質について疑問を抱き、「いい家」を見つけるために必要な「住まい観」の育成が必要と感じて「住育のすすめ」（角川SSC新書）を執筆されました。住宅に関する鋭い視点から提言をいただきます。

シフト21は経営変革を目指す企業と人の交流を図るグループとして、業種や業態を問わない幅広い交流を目的に定例会（原則第2火曜日）を開催しております。ゲスト参加大歓迎。お問合せは有村まで。

(arimura-c@nifty.com)

まんてんプロジェクト

JASPA 取締役 千田泰弘

- 6月16日まんてん総会が開催され、部外専門家から空港関連設備に関する講演があった。この分野も参入の可能性があり、まんてんでは引き続き研究することとなった。参加者は50名を越えて盛況であった。またJASPAから今年度の新規プロジェクトとして航空機関連部品の技術開発をスタートするとの発表があった。
- 6月19日～23日までパリエアショウがあり、JASPAは新潟市ブースおよび全国中小企業シャレーに参加した。2名が出張した。TV東京の人気番組ワールドビジネスサテライトがJASPAの参加する無人機用環境対応ジェットエンジン開発の開発現場、パリエアショウでの部品展示などを大きく取り上げて6月24日に放映した。パリエアショウでは、航空機業界が非常に活発になっており、大型受発注の発表が相次いだ。海外参加者は、開発中のジェットエンジンに大きな興味を持った。
- 無人飛行機の民生利用を研究し、今後の普及を踏む為、UAV研究開発協議会をスタートさせた。専らネット上にて、UAVの利用分野、利用方法、技術、制度、等を議論し情報を共有する為にHPとフェイスブックを連動した場を作った。

HPアドレス：<http://icomnet.jp/uav/index.html>

第119回日韓ビジネス協議会開催案内

高橋導徳

日 時：平成23年7月27日(水) 15:00～17:15例会 17:15～18:15懇親会

場 所：神奈川中小企業センター5F会議室

○会社紹介：(有)シー・ブリッジ 広告製作業 代表取締役 天地 鋭男氏

○特別講演：「ソーシャルメディアを活用したビジネスチャンス」 Kominenco 代表 小峰直保子氏

○会社紹介：(株)オリエンタル・シグマ 韓国にある日本人の貿易会社 代表取締役 菊田 顕 氏

○基調講演：「省エネ対策を支える運用マネージメント」

(株)竹中工務店 環境エネルギー本部 岸本 知子氏

第118回(6月22日)日韓ビジネス協議会の報告

○会社紹介：(有) MAK I スポーツ 代表取締役 牧 直弘氏

*2006年設立、ウェーブストレッチリングとは人間本来のしなやかな心と体作りのために考案され、テレビ、雑誌などでも紹介されている。スポーツクラブを中心に好評販売中。何人かの方が購入された。

○会社紹介：(株) マグエッグ 営業企画開発部長 村上 予氏

*マグネチックシートの専門の会社である。売り上げ比率は工業製品・電子部品向け20%、マグネットシート、文具など80%である。ベトナム、アメリカ、中国上海に工場がある。

○会社紹介：(株) テクモ 常勤監査役 永島秀一郎氏

*輸出用オモチャ製造業からはじまり、紆余曲折を経て平成19年にLED照明器具に着手した。蛍光灯、ハロゲンランプに代替するもので省電力、輻射熱が少なく、長寿命が特徴である。

○メイン講師：「日韓中小企業商談会」の活動概要など

(財)日韓産業技術協力財団 日韓中小企業情報交流センター所長 初瀬川 茂氏

*商談会は6月16日(木)～17日(金)大田区産業プラザ、品川プリンスホテルにて開催された。工場見学、経営セミナー、パネルディスカッション(日韓経営者3名)、企業交流会(約50人)であった。

工場見学は韓国企業11社(15名)が参加した。商談会には日本企業：17社、韓国企業71社、商談件数133件。

中小企業支援施設紹介

「メンタルヘルス対策支援センター」

- 心の健康づくり計画はどのように作れば良いのか。
- 職場復帰支援プログラムはどのように作れば良いのか。
- 社内のメンタルヘルスに関する相談体制づくりについてどのようにすればよいのか。
- メンタルヘルスについて従業員に理解してもらうためにはどうしたら良いのか。
- 社内スタッフや従業員への教育・研修はどうしたら良いのか。

このようなご相談に専門家がアドバイスいたします(サービスは全て**無料**です)**窓口開設時間：9:00～17:30(土、日は休み)** 気軽にお電話ください。

独立行政法人 労働者健康福祉機構 メンタルヘルス対策支援センター(神奈川産業保健推進センター内)

住所：神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町3-29-1 第6安田ビル 3階

TEL 045-410-4761 メール：mental-sien@sanpo-kanagawa.jp HP：<http://www.sanpo-kanagawa.jp/sien.html>

事務局のコーナー

神奈川県異業種グループ連絡会議 交流アドバイザーが詰めております、気軽にご連絡ご相談ください(無料)

【月】 荒 直孝 ③村田和彦 【火】 八幡 敬和 児玉 英二 【水】 杉本 明子 (芝 忠)

【木】 松井 利夫 【金】 ①③⑤魚崎 誠也 ②④織方盛男 【土、日、祭日】は休業です。

〒231-0015 横浜市中区尾上町5-80 神奈川中小企業センタービル5階 神奈川異グ連事務局

T/F 045-633-5142/045-633-5194 URL：<http://www.kanagawa-iguren.com> Mail：iguren@kanagawa-iguren.com皆様からのご投稿をお願いいたします。(会報編集担当) mail t-onogawa@pro.odn.ne.jp 小野川へお送りください。

神奈川異グ連への連絡問合せは、上記事務局当番者 tel 045-633-5142 fax 045-633-5194 へどうぞ!